

## 令和元年度第3回東浦町地域公共交通会議 会議録

会議名	令和元年度第3回東浦町地域公共交通会議
開催日時	令和元年11月18日(月) 午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所	東浦町役場本庁舎3階 合同委員会室
出席者・欠席者	別添「令和元年度第3回東浦町地域公共交通会議委員名簿」のとおり
議題	(1) ダイヤ改正後の実施状況について【報告】 (2) 企画乗車券(小・中学生1乗車10円バス)の実施状況について【報告】 (3) 東浦町地域公共交通網形成計画及び地域間幹線系統確保維持計画の事業評価について【協議】
その他	なし
傍聴者の数	2人

### 審 議 内 容

#### ◆防災交通課長

定刻となったため、会議を開催する。

#### ◇会長

今回は議題が2つある。皆様の意見、ご協力をお願いします。

#### ◆防災交通課長

本日の出席委員は、委員名簿のとおり、27名中24名で、定足数の過半数以上に達しているため、東浦町地域公共交通会議設置要綱第6条第2項により、本会議が成立したこと及び同条第4項により、会議は公開とし、本日の傍聴者は2名であることを報告する。また、本日の会議の内容については、町のホームページで後日公開することを併せて報告する。

それでは引き続き議事に入らせていただく。

#### ◇会長

次第に従い議事を進める。議題1 ダイヤ改正後の実施状況について、事務局から説明を求める。

#### 議題1 ダイヤ改正後の実施状況について…資料1

#### ◆事務局A

資料に沿って説明をする。

まず、資料1のダイヤ改正後の実施状況について説明をさせていただきます。

「1. 10月1日にダイヤ改正を実施」について説明する。改正日の令和元年10月1日(火曜日)午前7時30分から午前8時まで、緒川駅東口のロータリーにて出発式を開催した。早朝の式典にも関わらずお越しいただいた皆様には、改めてお礼申し上げる。

当日の様子は、中日新聞 10月2日(水曜日)の朝刊 知多版にて掲載していただいたほか、知多メディアス 10月2日(水曜日)午後5時からの medias エリアニュースにて取り上げていただいた。また、本町では広報ひがしうら 9月1日号にダイヤ改正の要点、

10月15日号の表紙に出発式の写真を掲載し、ダイヤ改正および小型車両の導入を周知した。

次に「2. ダイヤ改正後の循環バス利用状況」について説明する。

次に「3. ダイヤ改正に関するご意見・ご要望など」について説明する。まず、問い合わせについては、改正後のダイヤに慣れていない利用者から「時刻表の読み方を教えてほしい」や「目的地に行くためにはどの時間のバスに乗ればいいのか」などの問い合わせが多かった。

次に要望・意見などについては、資料のとおり対応している。1のように「環状線の遅延が原因で長寿線への乗り換えがうまくできない。対応してほしい」といった要望には、知多乗合株式会社と協議の上、他のダイヤに影響がでない範囲で柔軟に対応するものとした。また、2のように「乗りこぼしが発生する小型車両を中型バスに変更してほしい」といった要望には、小型車両の導入意図等を説明している。また、小型車両に関するものだと3の「小型車両に案内板を設置してほしい」といった要望には、路線名を記載したA4サイズの案内板をダッシュボードに設置し対応している。

これらの内容については、次回のダイヤ改正への反映を検討していく。

#### ◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

#### ◆委員A

乗り継ぎの際に緒川駅でバスから降車させられることについて、利用者から不満の声を多数聞いている。足腰の弱い方は乗り降りだけでも辛いと言っている。エンジンは止めてもよいから車内で待たせていただきたい。

#### ◆事務局A

緒川駅東口のバス停については、バスが到着した順に発車せず、車両の入れ替えが必要なダイヤとなっているため、バス停前で車両が待機できない時間帯が発生している。そのため、バス停前で待機できない車両については、利用者に一度降車していただいている。現在、利用者が降車することなく車内で待機できるよう、対応策を検討している。

#### ◆委員B

小型車両の乗りこぼしへの対応及び今後の予定を教えてください。

#### ◆事務局A

現在は後続便の案内を行っている。今後の予定については、乗りこぼし状況を分析した後、効果的な対策を検討していく。

#### ◆委員C

東浦高校線（文化センター経由）の小型11号車1便の緒川駅行きでは、アイプラザで満車となり、石浜コミュニティセンターや芦間のバス停から乗車できない。利用者からは無くて同じだという声も聞こえてくる。小型車両の路線が機能するよう対応をお願いしたい。

#### ◆事務局A

事務局としても石浜コミュニティセンター及び芦間で乗りこぼしが発生しているのは把握している。こちらの乗りこぼし状況を分析した後、効果的な対策を検討していく。

#### ◆委員D

11月12日に発生した事故の影響で50分ほど遅延が生じた件について、町としてどのよ

うに対応したのか。広報車で周知するべきではないのか。

◆事務局 A

バスロケーションシステムで遅延状況の周知を行っているほか、運行事業者に代車運行を依頼した。高齢者の方にもバスロケーションシステムを使っていただけるよう広報等での周知に努めていく。

◇副会長

バスロケーションシステムでの周知及び代車運行をしているのであれば不十分な対応とは思わないが、停留所でのバスロケーションシステムの周知に力を入れていくべきである。システムの見やすさなども今後検討していくとよい。

◆委員 D

マルス東ヶ丘店から環状線（右回り）で帰宅する際に、11時26分に乗れないと後続便が15時43分となる。この空白の時間帯に増便していただきたい。

◆事務局 A

増便となるとダイヤを大きく変更することになるため、全体との兼ね合いを精査しながら、慎重に検討していきたい。

◆委員 E

事務局から既に説明があったが、緒川駅東口のバス停に発着する車両を全て並べられないことから、利用者の降車をせざる得ない状況にある。解決するためにも緒川駅のロータリー整備またはダイヤの修正などを検討していただきたい。

◆事務局 A

緒川駅東口のバス停での問題については、運行事業者と協議を進めており、緒川駅のロータリー整備を検討している。

◆委員 F

資料1の3. ダイヤ改正に関するご意見・ご要望などの5の手押し車の件について、「原則、利用者の対応を依頼する」とあるが、これは手押し車の所有者のことか、それとも車内に同乗している利用者のことか。

◆事務局 A

手押し車の所有者を示している。

◆委員 G

車いす対応の車両に乗車した際に、降車ボタンの位置が高いように感じた。車いすの方が届かないことを心配している。

◆委員 H

通常時は見えないが、車いすの方が乗車する際に跳ね上げる椅子の位置に降車ボタンは配置してある。低い場所に配置してあるため、車いすの方でも降車ボタンを押すことは可能である。

◇副会長

電光案内板の表示については、修正の際は相談していただきたい。また、手押し車の対応については、運行事業者がどのように考えているのか教えていただきたい。

◆委員 H

手押し車の利用者が希望する場合は、運転手が補助する。

◇副会長

東浦高校線（文化センター経由）の小型 11 号車 1 便で発生している乗りこぼしについては、後続の環状線（左回り）の 1 号車 1 便より先行して緒川駅に到着することが原因で発生しているのではないかと。他のダイヤに影響が出る場合があるが、この便を前後に入れ替えることで解決できる。また、後続便の確保も可能で、利用者数の多いアイプラザ及び県営東浦住宅のバス停を通過することでも対応可能ではないか。これについては早急に対応すべきである。

◆委員 I

県営東浦住宅及びアイプラザで満車となってしまうので、石浜郷中の利用者はバスの利用を諦めている人が多い。

◇副会長

本乗りこぼし対策としては、アイプラザ及び県営東浦住宅のバス停を通過する方法で検討していくべきである。また、運行事業者に数点質問がある。緒川駅での待機時間が 20 分である必要はあるのか。また、待機する場所は緒川駅ではなく、終点の長寿医療研究センター及び刈谷駅などでも良いのではないかと。

◆委員 H

緒川駅での 20 分間の休憩については、乗務員の連続運転を防ぐために、遅延の影響を受けても最低 10 分間の休憩を設けられるようにする意味がある。休憩場所については、ダイヤ改正に合わせて変更することは可能である。

◇副会長

新設バス停の利用者数はどのようになっているか教えていただきたい。

◆事務局 A

10 月分の利用者数は、上高根台東で 28 名、上高根台西で 57 名、ふじが丘北で 31 名、ふじが丘で 22 名、ふじが丘南で 16 名、石浜コミュニティセンターで 16 名、体育館西で 13 名、生路小学校北が 21 名、生路コミュニティセンターで 15 名、東浦葵ノ荘で 0 名となっている。

◇副会長

上高根台の利用者数がまだ少ない。バス停を新設するように要望した方々にはしっかりと乗っていただきたい。また、環状線の利用促進としては、停留所標識の時刻表に逆回りの発時刻を小さく掲載する等の補助的な仕組みを作っていくことも必要である。

◆委員 J

利用者数の乗車人数はどのように集計しているのか。

◆事務局 A

乗務員が乗車時に集計している。

◇副会長

利用者数の集計は乗務員の大きな負担となっているが、データとして必要になってくる。顔認識カメラとリンクして集計できるシステムがあるため、導入を検討していく必要がある。

◆防災交通課長

多くの意見・要望を伺えた。中型車両の電光案内板の表示や緒川駅のロータリー整備などは速やかに対応していく。乗りこぼし対策については、ダイヤを変更する必要があるため、来年度の実施を目途に検討していきたい。

## ◇副会長

ダイヤのみの改正であれば法令上、会議は必要ない。11号車1便の乗りこぼしについては、アイプラザ及び県営東浦住宅を通過させる微修正で行えるため、機敏に対応できるのではないかと。必要であれば書面決議で良いのではないかと。

## ◇会長

大きな改正はすぐにはできないが、微修正で対応できるものについては早急に改善していく。その他なければ、次の議題に移らさせていただく。

## 議題2 企画乗車券（小・中学生1乗車10円バス）の実施状況について…資料2

### ◆事務局A

資料に沿って説明をする。

まず、資料2の企画乗車券（小・中学生1乗車10円バス）の実施状況について説明をさせていただく。前回の会議でも説明をしたものであるが、夏休み期間中の小・中学生を対象に、「う・ら・ら」のことをもっと知っていただきたい、乗っていただきたいという思いから、こういった企画を実施させていただいた。期間としては夏休みである令和元年7月20日（土）から9月1日（日）までである。乗車実績については、7月中は439人、1日平均36.5人、8月中は1,402人、1日平均45.2人、9月中は30人、1日平均30人、合計で1,871人、1日平均42.5人となった。昨年度実績と比較した場合、合計で147人増、1日平均で3.4人増となったため、効果があったと考えている。企画乗車券として、うまくいったと考えているので、来年度以降の実施についても検討していきたいと考えている。

### ◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

### ◇副会長

10円バスの利用者の目的地は主にどこであるか、特に利用者数の増えた停留所などはあるかを教えていただきたい。

### ◆事務局A

イオンモール東浦の乗車人数が多いことから、イオンモール東浦を目的地にしていると考えられる。今年度の企画乗車券で伸び率が最も大きかった停留所は新田分団詰所であり、昨年比103名の増で272名が乗車した。

### ◆委員A

刈谷駅から歩ける距離のため、刈谷市交通児童遊園に行く児童がいると聞いたことがある。

### ◆委員B

石浜地区ではあまり聞かないが乗車体験はやっているのだろうか。

### ◆事務局B

保育園及び小学校が独自に乗車体験を実施している。保育園や小学生の児童が20名、30名が一度に乗車すると乗務員が大変であるため、事前に連絡を受けている。その際によく聞いているのが卯ノ里小学校区と藤江小学校区である。乗車体験の目的地が中央図書館などであることから、緒川小学校区や片葩小学校区の児童たちは目的地に近いのか乗車体

験の連絡を受けた記憶はない。

◆委員B

利用者促進を図るためにも、子ども達を対象とした乗車体験を実施していく必要があるのではないかと。

◆事務局B

小学校とも話し合い、決めていきたい。

◇会長

その他なければ、次の議題に移らさせていただく。

**議題3 東浦町地域公共交通網形成計画及び地域間幹線系統確保維持計画の事業評価について・・・資料3-1、資料3-2**

◆事務局A

資料3-1に沿って説明する。

まず、「1. 協議会が目指す地域公共交通の姿」について説明する。町の地域公共交通に関する基本方針としては資料に記載のとおりである。

「2. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組内容」について説明する。まずは、ダイヤ改正関係については、ダイヤ改正の策定に向けての住民のニーズをくみ取るため、東浦町の「おでかけの足」をみんなで考える会、公共交通に関するグループインタビュー、東浦町の公共交通に関する町民アンケートを実施した。

バスギャラリーについては、ハロウィンとクリスマス時期にハロウィンバスとクリスマスバスを運行した。児童館や保育園の子ども達に協力を得て運行しており、今後も続けていきたいと考えている。

次に「う・ら・ら」&エコモビ達人教室については、例年、小学校でバスを利用する児童が多く在籍している、緒川保育園、藤江保育園、東ヶ丘幼稚園の年長児に実際の車両を用いて乗り方を学んでもらっている。また、愛知県のエコモビ担当にも来ていただき、バスに乗ることがエコにつながるということも学んでもらった。

「う・ら・ら」タクシーの運行については、「う・ら・ら」バスを通学用として利用している児童の乗りこぼし対策・安全対策の補完として「う・ら・ら」タクシーを運行している。乗車実績としては1,928人となっている。

その他、高齢者の自動車運転免許自主返納支援や「う・ら・ら」有料広告、産業まつりでの広報等を実施した。また、企画乗車券の実施状況については先ほど説明したとおりである。

次ページには、東浦町地域公共交通網形成計画事業の実施状況の有無を記載している。平成31年度は、新ダイヤの路線図に他市町の運行バスおよび民間バスの情報を掲載し、「2-4 総合地域公共交通マップの作成」を実施した。

次に「3 計画の達成状況の評価指標とその結果」について説明する。バス路線などの利用状況及び網計画に定めた事業の実施結果に関する評価については、前年度以上の数値を目標に毎年度実施している。網計画の評価については、最終年度に各種アンケート調査を踏まえ、実施する。スケジュールとしては毎年第3四半期に評価を行い、来年度以降の

事業に評価を反映させていくことになっている。

目標に対する評価について、まずは（１）補助系統路線の乗車人数について説明する。東ヶ丘・長寿線については、前年比 104.2%で増加、目標に対しても 103.2%で達成した。公共交通検索サービスの導入や企画乗車券などの利用促進策の効果があったと考えている。また、この路線は通学利用や市町を跨いでの利用も多くあるため、非常に大切な路線となっている。

平池台・長寿線については、前年比 98.3%の減、目標に対しても 97.0%の減となった。長寿線単体でみると利用者数は増となっているが、藤江小学校の通学利用者の減など平池台線での減少傾向が大きかったため、全体としても減となっている。ただし、こちらも通学利用や市町を跨いでの利用が多く、大切な路線となっている。

次に（２）４系統５路線の乗車人数等については、平池台線（体育館経由）と平池台線（ふじが丘経由）以外はプラスとなっており、全体としては前年比 698 人の増となった。バスギャラリーや企画乗車券などにより、子ども達の利用は増加傾向にある。ただ、今まで利用していた高齢者が高齢化の進展などを理由に利用しなくなってきている可能性があるため、対策が必要と考えている。

次ページ以降は個別の路線を簡単にまとめている。平池台線（体育館経由）は、アイプラ前や緒川駅東口などのバス停で増加傾向となっているが、藤江小学校西や県営住宅などの減少傾向が大きく、全体として減となっている。

また、平池台線（ふじが丘経由）については、体育館経由と同じくアイプラ前や緒川駅東口などのバス停で増加傾向となっているが、藤江小学校西や県営住宅の減少傾向が大きく、全体として減となっている。

ここで、一度資料 3-2 をご覧ください。こちらには補助年度でいう平成 31 年度の停留所別乗車人数について、月ごとの数値を掲載している。資料右下に 30 年度と 31 年度の増減人数と増減率のトップ 5・ワースト 5 を載せており、その中で主だったものについて吹き出しで補足している。数点紹介すると、増減数が最も伸びた緒川駅東口では 1,944 人の増となっており、JRとう・ら・らの相互利用者が増加していると考えている。また、増減数が最も下がった県営住宅では 1,183 人の減となっており、高齢化の進展などから定期利用者が減少していると考えている。

資料 3-1 に戻る。（３）高齢者の自動車運転免許自主返納件数については、16 名の減となった。平成 31 年度は広報等を使用し積極的に周知活動を実施したことから、平成 31 年度 10 月時点で 122 名と例年同期で 50 名の増となっている。平成 30 年度の実績に戻ると、支援内訳ではトイカを選択する人が最も多く、次点でタクシー助成券、マナカ、ICカードとなっており、タクシー需要も低くないことと言える。

（４）東浦町内での乗車台数としているが、前年比 1,552 台の減となった。タクシー会社の方からは、乗務員不足による稼働低下の影響が大きいと話を聞いている。

（５）「う・ら・ら」への財政投入額については、1,393,601 円の増となった。今後も補助金以外の収入を確保できるよう努めていく。

最後に「４ 自己評価から得られた課題と対応方針」については記載のとおりだが、現状の問題点や課題を抽出し、利便性向上につながる施策を実施していくほか、より幅広い年齢層にバスを利用してもらうため、大人向けのバス乗り方教室の実施や待合環境の改善を進めていきたいと考えている。その他としてはバスやタクシー運転手の従事者不足が深

刻なため、そういった面でも国や県、事業者に積極的な連携・協力をしていきたいと考えている。

#### ◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

#### ◆事務局B

利用者数の増について一点補足する。今年度は4月から9月までの期間で利用者数が大きく増加している。この増加は、4月に増床オープンしたイオンモール東浦の集客力が高まったことが主な要因であると推測している。

#### ◆委員A

タクシー利用者数の減には、乗務員不足が原因という見解も事実だが、働き方改革の影響も大きい。本影響により、乗務員の有給取得率が上がり、タクシー稼働率が下がったためである。また、東浦町に限らず愛知県全体で見受けられるものだが、一般企業でも残業が少なくなり、23時以降に居酒屋などの飲食店からタクシー利用を求める電話が減少した。つまり、タクシー利用者数の減には、乗務員が少なくなったことだけではなく、働き方改革の影響から、有給取得率が上がりタクシーの稼働率が下がったこと、利用者の需要が減退したことなど複数の影響があるといえる。

#### ◇副会長

利用促進については、毎年実施していると訴求力が落ちしまう。継続するものや新たに実施する予定のものなどはあるか。

#### ◆事務局B

バスギャラリーや保育園児を対象とした乗り方教室など子ども達に楽しんでいただいている事例については今後も継続して続けていきたいと考えている。また、ダイヤ改正を受けて、利用者が困惑しているといった声を聴いている。そのため、新たに大人を対象とした時刻表の読み方教室等を予定している。

#### ◇会長

その他なければ、採決を取らせていただく。

#### ◆全委員

異議なし。

### その他

#### ◇会長

その他で何かあるか？

#### ◆防災交通課長

次回の会議開催予定についてだが、来年の3月下旬には開催したいと考えている。

#### ◇会長

本日の議事日程をすべて終了した旨を告げ、閉会を宣告する。